

「2024年度秋季研究発表大会」参加者募集

第38回 国際P2M学会 研究発表大会 The 38th Congress of International P2M Association SDGs/ESG/CE サステナビリティと P2M

2024年度の国際P2M学会秋季研究発表大会を、下記の要領にて開催いたします。つきましては、会員の皆様の参加を募集いたします。参加ご希望の会員は、「6. 研究発表大会参加費関連」「7. 参加申し込み方法」をご参照のうえ、期限までにお申し込みください。大会プログラムは本資料の最後のページ（10ページ）を参照してください。本大会は青山学院大学（青山キャンパス）における対面とオンラインのハイブリッド形式にて開催いたします。

1. 大会テーマと大会趣旨

今回の大会のテーマは「SDGs/ESG/CE サステナビリティと P2M」です。

SDGs（持続可能な開発目標）の観点から、未来課題のテーマの設定を行い、ESGの観点から、環境／社会／ガバナンスとして目指すべき指標の示唆を得て、循環型経済（CE: Circular Economy）の観点から経営戦略や製品企画の上流段階から、使用済み製品・部品を確実に資源回収して、新たな製品サービスへ再利用できるビジネスプロセスモデルへの転換が求められます。

以上で述べてきた未来の社会課題や地域課題の解決に向けて、P2Mの理論やマネジメント手法をさらに進化した新たな方策を産官学連携で創りあげていく第一歩にしていきましょう。

本大会では、関連する基調講演と関連する3つのラウンドテーブルを下記のように企画しています。

■ 基調講演（3ページの「5. 基調講演」を参照）

講演(1) 文部科学省 科学技術・学術制作局 人材政策課長 奥篤史氏

講演題目：博士人材の活躍促進に向けて

講演(2) 日本プロジェクトマネジメント協会 理事長 加藤亨氏

講演題目：P2M人材の重要性和博士号取得による人材育成の意義

講演(3) 教育テック大学院大学(2025年4月開学)事務局長 織田竜輔氏

講演題目：社会課題解決に取り組む来年度新規開学予定大学院大学の狙い

■ ラウンドテーブル（4ページの「6. ラウンドテーブル」と7～9ページを参照）

テーマ1：マネジメント力強化と国際競争力向上に向けた新たなP2M博士人材育成戦略
～リスキリング政策を活用した日本の未来創造～

テーマ2：P2Mで語る地域活性・環境・SDGs、教育
ーリベラルアーツとしてのP2Mーを視野において

テーマ3：P2Mを活用した組織変革の推進

2. 開催日・形式

開催日 : 2024年11月9日(土)
開催校 : 青山学院大学 青山キャンパス (〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25)
開催形式 : 会場と配信のハイブリッド
受付開始時刻 : 8:50
最寄駅 : JR 山手線、JR 埼京線、東急線、京王井の頭線、東京メトロ副都心線 他
「渋谷駅」より徒歩 10 分
東京メトロ (銀座線・千代田線・半蔵門線)「表参道駅」より徒歩 5 分
アクセスマップ : <https://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/access.html>
キャンパスマップ : <https://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/aoyama.html>

3. 開催団体に関する情報

主催 : 一般社団法人 国際 P2M 学会 (※)

共催 : 青山学院大学

会長 : 国際 P2M 学会会長 亀山秀雄

大会実行委員長 : 玉木欽也 (青山学院大学経営学部教授)

大会実行副委員長 : 中邨良樹 (青山学院大学経営学部教授)

大会実行委員 : 薄上二郎 (青山学院大学経営学部教授)

大会実行委員 : 高松朋史 (青山学院大学経営学部教授)

後援 : 独立行政法人環境再生保全機構 (ERCA)

協賛 (五十音順) : 一般財団法人 エンジニアリング協会、一般財団法人 日本科学技術連盟、
一般社団法人 PMI日本支部、一般社団法人 研究・イノベーション学会、
一般社団法人 情報サービス産業協会、一般社団法人 日本生産管理学会、
公益社団法人 化学工学会、
特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会、
日本 MOT 学会、SPI コンソーシアム、日本ソーシャル・イノベーション学会

※一般社団法人 国際 P2M 学会 : 国際 P2M 学会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター(平日 : 10 時~17 時) TEL: 03-6824-9371/FAX:03-5227-8631

4. 大会スケジュール : ※ 都合により、変更される場合があります。

9:20 - 12:20 研究発表 (予定)

12:20 - 13:30 昼食休憩

13:30 - 13:50 開会挨拶、開催校挨拶、オープニング

13:50 - 15:50 基調講演 (詳細は「5. 基調講演」を参照)

講演(1) 文部科学省 科学技術・学術制作局 人材政策課長 奥篤史氏

講演題目 : 博士人材の活躍促進に向けて

講演(2) 日本プロジェクトマネジメント協会 理事長 加藤亨氏

講演題目：P2M 人材の重要性と博士号取得による人材育成の意義

講演(3) 教育テック大学院大学（2025年4月開学）事務局長 織田竜輔氏

講演題目：社会課題解決に取り組む来年度新規開学予定大学院大学の狙い

15:50 - 16:00 休憩

16:00 - 17:30 ラウンドテーブル（詳細は「6.ラウンドテーブル」を参照）

テーマ1：オーガナイザー：亀山秀雄（国際P2M学会）

マネジメント力強化と国際競争力向上に向けた新たなP2M博士人材育成戦略
～リスキリング政策を活用した日本の未来創造～

テーマ2：オーガナイザー：岡田久典（早稲田大学）

P2Mで語る地域活性・環境・SDGs、教育

ーリベラルアーツとしてのP2Mーを視野において

テーマ3：オーガナイザー：小笠原秀人（千葉工業大学）

P2Mを活用した組織変革の推進

17:35 - 17:40 休憩

17:40 - 17:55 ラウンドテーブルからの報告

17:55 - 18:00 次回発表大会の予告

閉会挨拶 白井久美子 氏（国際P2M学会副会長）

5. 基調講演

講演(1) 文部科学省 科学技術・学術制作局 人材政策課長 奥篤史氏

講演題目：博士人材の活躍促進に向けて



博士人材は、社会にイノベーションをもたらす重要な存在だが、我が国においては、諸外国と比較して、人口100万人当たりの博士号取得者数が減少傾向にあるなど、博士人材の不足が指摘されている。このような状況を改善するため、今般、盛山前文部科学大臣を座長とするタスクフォースにおいて「博士人材活躍プラン～博士をとろう～」を取りまとめ、産業界とも協力して博士人材の多様なフィールドでの活躍を強力に進める方策を取りまとめた。

本講演では、上記「博士人材活躍プラン」のほか、文部科学省で現在取り組んでいる政策や、今後の科学技術・人材政策の基本的方向性について取り上げる。

プロフィール：

京都大学 理学部理学科（物理学専攻）卒

平成12年 科学技術庁科学技術政策局政策課

平成23年 在英国日本国大使館一等書記官

平成28年 文部科学省大臣官房総務課企画官・副長

平成29年 科学技術政策担当大臣秘書官

平成30年 文部科学省科学技術・学術政策局量子研究 推進室長
令和2年 文部科学省大臣官房人事課人事企画官
令和4年 同 研究振興局 ライフサイエンス課長
令和5年 同 研究開発局原子力課長
令和6年 同 科学技術・学術政策局人材政策課長（現職）

講演(2) 日本プロジェクトマネジメント協会 理事長 加藤亨氏
講演題目：P2M 人材の重要性と博士号取得による人材育成の意義



博士人材は高い専門性や国際性、課題設定・解決能力などの汎用的能力を備えた高度専門人材であり、イノベーション創出にも貢献することから、アカデミアのみならず、産業界での活躍が期待されている。海外では社会の様々な分野で活躍しており、我が国においてもその重要性と期待は非常に高まっている。

「博士を目指したい方が安心して学修できる環境を整え、高い専門性と汎用的能力を有する人材として活躍することを後押ししたい。」この思いから、協会内に「博士人材と指導教員の醸成SIG」を設立した。本講演では、キャリアアップのための博士号取得の必要性を中心に述べる。

プロフィール：

1978年 慶応義塾大学工学部管理工学科修士課程修了

1978年～1999年 千代田化工建設（株）情報システム部門勤務。グローバルネットワーク構築、電子協働推進プロジェクトなどのPMを担当。

1999年～2016年 ITエンジニアリング（株）勤務。ネットワークデータサービス事業部長、EPM（Enterprise Project Management）事業部長、取締役常務執行役員C-IT統括などを歴任。

2016年7月～2019年3月 千代田ユーテック株式会社勤務。社長、顧問歴任。

講演(3) 教育テック大学院大学（2025年4月開学）事務局長 織田竜輔氏
講演題目：社会課題解決に取り組む来年度新規開学予定大学院大学の狙い



教育テック大学院大学は、教育DXと教育機関の経営に特化したカリキュラムで、最先端の教育テック活用と経営、その理論と実践を学ぶことを目的としている。本講演では、教育テック大学院大学の設立の趣旨・目的を紹介する。さらに、これまで実践してきたメディア事業の創設、人材紹介事業の創設、電力自由化・地域エネルギー事業創設プロジェクト研究、自治体や国との地方創生事業、環境・エネルギー関連事業などの経験に基づいた新たな時代の高等教育について述べる。

プロフィール：

学校法人OCC教育テック大学院大学（2025年4月開学）事務局長、
大阪キリスト教短期大学 特任教授、
OCC教育テック総合研究所 上級研究員、
SDGs不動産・都市研究所 上級研究員
2012年 学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学 入職 出版部／事業構想研究所主任研究員
2019年 月刊事業構想・月刊先端教育 編集主幹、産官学連携本部長
2020年 月刊事業構想編集長、月刊先端教育編集長、メディア共創部長
2021年 財務部長（併）公共事業部長
2023年 学校法人OCC 入職

6. ラウンドテーブル（詳細は7ページ～9ページを参照）

午後に開催するラウンドテーブルは、前回（2024年春季研究発表大会）から始めた企画です。今回は、以下の3つのテーマを設定しました。各テーマに分かれて発表や議論を行い、自由に意見交換をすることが目的です。ラウンドテーブル終了後は、各テーマでどのような議論があったのか全体で共有します。

テーマ1：マネジメント力強化と国際競争力向上に向けた新たなP2M博士人材育成戦略

～リスクリング政策を活用した日本の未来創造～

オーガナイザー：亀山秀雄（国際P2M学会）

テーマ2：P2Mで語る地域活性・環境・SDGs、教育

－リベラルアーツとしてのP2M－を視野において

オーガナイザー：岡田久典（早稲田大学）

テーマ3：P2Mを活用した組織変革の推進

オーガナイザー：小笠原秀人（千葉工業大学）

7. 研究発表大会参加費関連

◆ 大会参加費：今大会の参加費支払いは 全て事前振込みのみにて受け付けます。

会員	：正会員、法人会員に所属の方	9,000 円
	：学生会員	3,000 円
非会員	：社会人、社会人学生	12,000 円
	：学生、大学院生	5,000 円

下記学会の銀行口座宛にお振込下さい。（振込最終締切：2024年11月1日（金））

11月2日（土）以降は、参加申込ならびに参加費振込の受付は致しません。

また、11月1日（金）迄に未振込の場合は、投稿論文を予稿集に掲載致しません。

※予稿の筆頭著者（当日の発表者）は、国際P2M学会会員に限られます。当学会に未加入の方は、遅くとも2024年11月1日（金）までに入会手続きを済ませてください。新規入会には、上記参加費とは別に、正会員が12,000円（入会金2,000円、年会費10,000円。社会

人学生を含みます)、学生会員が6,000円(入会金1,000円、年会費5,000円)、必要となります。尚、入会費の振込み先は ホームページ及び入会申請フォームに記載の「ゆうちょ」口座です。大会参加費振込口座とは異なりますのでご注意ください。

入会手続きの詳細は、学会ホームページから、こちらをご覧ください

→ <http://iap2m.org/accept>

◆ 基調講演・ラウンドテーブルのみ参加費用

会員・非会員とも : 3,000 円

◆ 情報交換会費用 : 4,500 円【当日払い : 5,500 円】

◆ 大会参加費振込み先銀行口座 :

三井住友銀行 (銀行コード : 0009)

飯田橋支店 (店番号 : 888)

普通預金 (口座番号 : 7098073)

口座名義 (一般社団法人 国際 P2M 学会)

※大会参加費の領収書は、大会開催後、全員に領収書 (PDF) をメールで送付いたします。宛先の指定がない場合は本人宛の領収書になりますので、ご注意下さい。

◆ 留意事項

※ 振込済みの参加費は、不参加の場合でも返金できません。

8. 参加申し込み方法

◆ 参加申込期限 :

論文投稿者 10月25日(金)迄に申込み登録を済ませてください。

大会参加のみの方 : 参加費振込の締切11月1日(金)迄に申込登録を済ませてください。

◆ 研究発表大会参加申込みはこちらから(注. 発表者も、申込み登録が必要です)

https://www.iap2m.org/regist_taikai.html

◆ 参加登録に関する参考情報

ブラウザが Internet Explorer の場合、バージョンが新しいと無応答になる場合があります。

次の操作を参考にして下さい。<http://www.iap2m.org/pdf/ie201309.pdf>

9. P2M セミナー動画の掲載

国際 P2M 学会では、P2M の基礎知識、事例による P2M の理解、適用事例や、論文の書き方について、本学会ベテラン講師陣が分かりやすく解説した次のセミナー動画 (YouTube) を作成しています。P2M に関する知識を深めたい方、論文執筆経験の浅い方など、広くご視聴いただければ幸いです。

詳しくは、次のリンクをご参照ください。

<http://iap2m.org/youtube/>

10. お問い合わせ先 : 国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

マネジメント力強化と国際競争力向上に向けた 新たな P2M 博士人材育成戦略 ～リスキリング政策を活用した日本の未来創造～

ラウンドテーブル 1・オーガナイザー 亀山秀雄

<企画の背景と目的>

この企画は、日本の国際競争力強化と企業のマネジメント力向上のため、P2M（プロジェクト&プログラムマネジメント）分野における社会人博士人材育成の重要性を広く啓蒙し、産学官連携による新たな人材育成体制構築に向けた議論を深めることが目的である。本企画は、P2Mに関する学協会と大学、博士人材育成を進める文部科学省、博士人材を活用する企業および関係団体との連携の下に実施する。

<パネリスト>

白井久美子氏、PMAJ 副理事長、国際 P2M 学会副会長、BIPROGY グループ・ユニアデックス株式会社常務執行役員、株式会社明電舎取締役：PMAJ の「博士人材と指導教員の醸成 SIG」の提案者として、PMAJ と経済同友会との連携による社会人博士人材育成の必要性について発言頂く。

奥篤史氏（基調講演者）、文部科学省 科学技術・学術制作局 人材政策課長課長：政府としての社会人博士支援立場から発言して頂く。

加藤亨氏（基調講演者）、プロジェクトマネジメント協会理事長：P2M 資格認定組織として、ライセンサーによるイノベーションとキャリアアップのための博士号取得の必要性について発言頂く。

加藤慎章氏、株式会社 ETS ホールディングス社長：MBA ホルダ・経済同友会社会人博士号取得支援の観点から、企業側の視点と課題について言及して頂く。

久保裕史氏、ERCA P2M 専門職：富士フィルム在職中に博士号取得、千葉工業大学教授時代に 10 名の社会人博士を育成し、現在 ERCA 地球環境基金部 P2M 専門職として組織内で博士人材育成を目標にマネジメント人材育成を行っている経験から発言頂く。

加藤美治氏、東京農工大学 MOT 部会会長：富士電機在職中に農工大学 MOT で修士号取得し、企業で新規事業を担当し、現在社会人博士号取得を目指している経験から発言頂く。

<議論のポイント>

- なぜ今、社会人博士人材育成が必要なのか
- 企業にとっての博士人材育成の必要性
- リスキリングの方法としてのアプレントイスシップ
- 社会人博士号取得経験者からの体験的意見
- 博士号を付与する大学からの教育体制についての課題
- 産学官と学協会が連携した社会人博士人材育成体制の在り方

P2Mで語る地域活性・環境・SDGs、教育 ーリベラルアーツとしてのP2Mーを視野において

ラウンドテーブル2・オーガナイザー 岡田久典

<企画背景>

P2M博士号によるマネジメント力強化と国際競争力向上に向けた新たな人材育成戦略が、本学会の重要テーマではあるが、一方で高等教育(修士、学士)、高校教育におけるP2M教育は現代のリベラルアーツとして極めて広範なニーズがあると考えられる。さらに地域活性化分野、環境分野、教育分野、SDGs分野など公的セクター関係者の業務基盤知識としてのP2Mニーズも極めて高いと考えられる。こうしたことから、今回関係分野の第一人者を招聘し、上記の問題について参加者とともに議論を深めたい。

<発表者紹介>

織田竜輔氏（基調講演者）、教育テック大学院大学：

今話題(2025年4月開学)の教育テック大学院大学の事務局長として、新たな時代の高等教育を語って頂くとともに、SDGs、環境問題の専門家としても議論に参加して頂く。

大和田順子氏、教育テック大学院大学教授、立命館大学客員教授：

今回のテーマ分野すべてに精通し、これらの分野の第一人者であり、P2Mとの関係にも詳しい。

岡田久典（オーガナイザー）、早稲田大学環境総合研究センター上級研究員：

AEONTOWAリサーチセンター副代表として、今回のテーマ分野の統合的研究を進めている。

<進め方>

基調講演者である織田竜輔氏、大和田順子氏、岡田久典からラウンドテーブルでの議論を展開するための発表を行う。その後、出席者の方にも積極的に参画いただき、議論を深める。

P2Mを活用した組織変革の推進

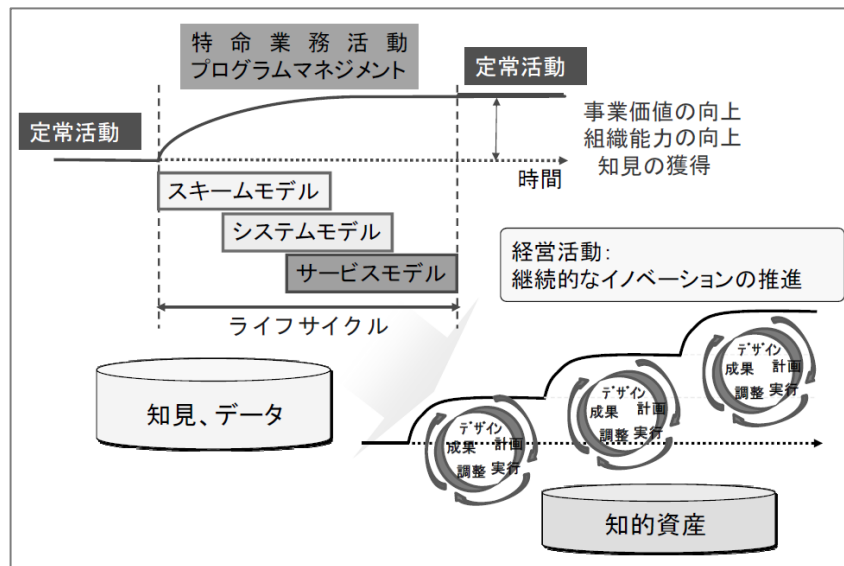
ラウンドテーブル3・オーガナイザー 小笠原秀人

<企画背景>

近年、AI (人工知能)やIoTをはじめとする技術の利活用が進む中で、仕事の在り方や進め方、システムやソフトウェアに求められる機能やその開発方法など、いろいろなことが大きく変わりはじめています。このような変化に対応するために、当然、組織の変革も求められています。

しかし、いつの時代も「激動の時代」という枕詞を使いながら、組織の変革が求められてきましたが、その激動を乗り越えるための方法としては、各種の知識体系（ISO9000、CMMI、PMBOKなど）を活用することが中心だったと思います。しかし、今回の大きな変化へ対応するには、既存の知識体系の活用を中心とした活動では立ち向かえない可能性があります。

このような状況の中、今まさに求められているのは、日本版プロジェクト&プログラムマネジメント（P2M）の概念（以下の図）で示されている、「事業価値の向上」、「組織能力の向上」、「知見の獲得」だと考えています。



<進め方>

最初に、企業での経験が豊富であり、現在、大学教員としてマネジメント領域の研究・開発を推進している岡田公治教授（東京都市大学）と新谷幸弘教授（千葉工業大学）からポジショニングトークをいただきます。その後、参加者のみなさんと2～3のテーマを絞りこみ、絞り込んだテーマについて議論を深めます。

【引用】「P2M Version 2.0 コンセプト基本指針」図4 日本版プロジェクト&プログラムマネジメント

<http://www.iap2m.org/pdf/p2mconcept200906.pdf>

研究発表大会プログラム（予定）				
2024年11月9日（土） 国際P2M学会2024年度秋季研究発表大会				
「SDGs/ESG/CEサステナビリティとP2M」				
午前の部（研究発表）				
会場	A会場	B会場	C会場	D会場
研究発表トラック	地域創生・地域実装・SDGs	社会課題・P2M理論	近未来のP2M、企業経営、パンデミック	変革・人材育成・グローバル連携・PBL
9:20-9:50	A-1：中野良樹、玉木欽也 地方自治体の産学官社会連携プログラムのP2M適用～富士市のプログラムを対象に～	B-1：岡尾和真 カーボンプレジット活用戦略におけるプログラム戦略マネジメントの適用 PEST分析による外部環境評価	C-1：小原重信 P2M標準におけるイノベーションマネジメントの視界－社会信頼革命における価値創造の方向性と社会インパクト戦略－	D-1：平田貞代 生成AIの急速な普及に対応するIT企業のプログラムマネジメントに関する考察
9:50-10:20	A-2：薄上二郎 ごみ拾いSNSアプリの導入と自治体と与える効果	B-2：井口英夫、玉木欽也 日本の要介護認定に寄与するプラットフォーム構築を目指したP2M理論による現行システムの問題分析と課題抽出	C-2：浅見哲也、辻本将晴 半導体事業における価値獲得マネジメントについての考察	D-2：石川隆、内平直志 グローバルな連携によるソフトウェア開発プログラムを成功に導くための実践的方法の提案－日本・インド間連携の事例研究－
10:20-10:40	A-3：谷口浩二 P2M理論に基づく地方創生プロジェクトの分析と人材育成モデルの構築～三重県多気町における産学連携の実践事例～	B-3：須原誠、玉木欽也、薄上二郎 プロファイリング/プラットフォームマネジメントを適用した通所型介護サービスシステムの構築設計～事例研究：青藍会ウェルネスセンター中央の実証研究～	C-3：孔佳偉 スーパーマーケット業界におけるオムニチャネルの視点から消費者満足に関するアンケート調査研究	D-3：Tomonori Komiyama Systemic innovation network from collective inaction in climate change The Case of Japan's Hydrogen Station Industry
10:40-10:50	休憩			
10:50-11:20	A-4：岩崎祐子 サイバーレジリエンス強化のための地域型BCM	B-4：岡尾和真 カーボンプレジット活用戦略におけるプロファイリングマネジメントの適用 ステークホルダー分析とシナリオ作成	C-4：林田佳代 ライフサイクルマネジメントを適用したスタートアッププロセスに対応した支援制度の現状分析 登記前の小規模事業者に対する伴走支援の提案と事例研究	D-4：新目真紀、玉木欽也 CEをプロデュースできる人材育成を目的としたPBL実施時のP2M応用した学習支援方法に関する考察
11:20-11:50	A-5：大和田順子 「SDGs未来都市」計画策定とP2M～和歌山県みなべ町を事例として	B-5：玉木欽也、薄上二郎、高松朋史、中野良樹、荒川雅裕、木内正光、朴英元 循環型経済(CE)の方法論/システム技法開発およびCE政策動向調査/比較研究に向けた共同研究の組織方針管理－プロファイル/プラットフォームマネジメントを活用した国内外共同研究の推進	C-5：高松朋史 「SDGs/CEバリューチェーン構築」におけるP2Mフレームワークの適用可能性	D-5：岡本華枝、徳永基与子、鈴木克明、小笠原秀人 統合実習における「多重課題演習」を普及するためのプラットフォームマネジメントの実践
11:50-12:20	A-6：中野健太郎、永井祐二、岡田久典、李洸昊、小野田弘士 脱炭素化に資するバイオマス活用研究の地域実装に向けた統合的マネジメントの適用	B-6：中村恵理、原田綾子、中澤あいら、沖浦文彦、白坂成功 緊急性のあるかつ流動的な社会的プログラムにおける集積的価値実現のための効果的マネジメントに係る考察－難民背景のある人達の第三国への受け入れ事例を用いて－	C-6：谷口邦彦 パンデミック環境に対応した活動の構築に関する研究Ⅱ	
12:20-13:30	昼休み			
午後の部（基調講演、ラウンドテーブル）				
13:30-13:40	開会挨拶			
	開催校挨拶			
13:40-13:50	オープニング：玉木欽也氏（秋季研究発表大会実行委員長）			
13:50-15:40	基調講演 講演(1) 文部科学省 科学技術・学術制作局 人材政策課長 奥篤史氏 講演題目：博士人材の活躍促進に向けて 講演(2) 日本プロジェクトマネジメント協会 理事長 加藤亨氏 講演題目：P2M人材の重要性と博士号取得による人材育成の意義 講演(3) 教育テック大学院大学（2025年4月開学）事務局長 織田竜輔氏 講演題目：社会課題解決に取り組む来年度新規開学予定大学院大学の狙い			
15:40-15:50	休憩			
15:50-17:20	ラウンドテーブル ラウンドテーブル1【現地開催】（A会場） マネジメント力強化と国際競争力向上に向けた新たなP2M博士人材育成戦略～リスク管理政策を活用した日本の未来創造～ オーガナイザー：亀山秀雄（国際P2M学会） パネリスト： 白井久美子氏（PMAJ副理事長、国際P2M学会副会長、BIPROGYグループ・ユニアデックス株式会社常務執行役員、株式会社明電舎取締役） 奥篤史氏（文部科学省 科学技術・学術制作局 人材政策課長課長） 加藤亨氏（プロジェクトマネジメント協会理事長） 加藤慎章氏（株式会社ETSホールディングス社長） 久保裕史氏（ERCA P2M専門職） 加藤美治氏（東京農工大学MOT部会長） ラウンドテーブル2【現地開催】（B会場） P2Mで語る地域活性・環境・SDGs、教育－リベラルアーツとしてのP2M－を視野において オーガナイザー：岡田久典（早稲田大学） 発表者： 織田竜輔氏（教育テック大学院大学） 大和田順子氏（教育テック大学院大学教授、立命館大学客員教授） 岡田久典（早稲田大学環境総合研究センター上級研究員） ラウンドテーブル3【ハイブリッド】（C会場） P2Mを活用した組織変革の推進 オーガナイザー：小笠原秀人（千葉工業大学） 発表者： 岡田公治（東京都市大学） 新谷幸弘（千葉工業大学）			
17:20-17:30	休憩			
17:30-17:50	ラウンドテーブルからの報告、司会：中野良樹氏（青山学院大学）			
17:50-18:00	次回予告：岡田公治氏（次期大会実行委員長、国際P2M学会理事） 閉会挨拶：白井久美子氏（国際P2M学会副会長）			